

【家庭数配布】



令和5年2月2日

保護者の皆様

南アルプス市立櫛形西小学校
校長 山田 浩

令和4年度 後期学校評価の結果について

厳寒の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より本校教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、今年度の後期学校評価の結果がまとまりましたので、お知らせいたします。

本校の学校評価は、学校教育目標の実現（学校経営方針の実現に向けた本年度の努力点）のための取組状況を教職員による自己評価に加え、保護者の皆様や児童によるアンケート調査結果を利用する中で、それぞれの立場を踏まえるとともに、これらに関わる設問に寄せられた意見や日常的に行っている児童観察および意識調査も加味して分析し考えています。

【1】評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状況』と判断しました。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は『改善の余地がある状況』と判断しました。（A:とても思う B:思う C:あまり思わない D:まったく思わない）

【2】全体的な傾向

児童・保護者・職員とも、肯定的評価の割合が多く満足できる状態だと言えます。しかし、前期と比較しますと、項目によっては若干その割合が減少しているものもあり、取組を再度検討する必要性を示唆しています。

〈児童において〉

【A】【B】の合計が80%を超えている項目は、17項目中13項目であり、その内、10項目で90%以上の肯定的評価で、全体的には良好な結果が得られています。しかし、残り4項目「⑥わたしは、無言清掃をしている。」（肯定率74%）「⑧わたしは、家の人に学校の様子を話している。」（肯定率76%）「⑩わたしは、授業中に自分の考えを伝えている。」（肯定率70%）「⑫わたしは、早寝早起きをしている。」（肯定率67%）においては、『改善の余地がある』状態であります。

【D】評価だけに焦点を当ててみると、ほとんどの項目に【D】評価が見られる結果となっている。前期と比較すると、その項目数は増えている。少数ではあるが、看過してはならないことだと言えます。

〈保護者において〉

後期においても、12項目中すべての項目で【A】【B】の合計が80%を超えています。さらに、その内10項目が90%を超える肯定的な評価になっており、満足できる状況にあると判断できます。前期の調査で気がかりであった、【E】「わからない」という回答だが、減少されています。しかし、「⑥お子さんには、困ったことがあった時に相談などのできる先生がいますか。」については、前期より微量ではあるが増加しています。また、「⑤学校には、お子さんのことで相談できる友だちがいますか。」では、【E】「わからない」という回答が目立つが、前期より大幅に少なくなっています。似たような質問であるが、当事者か否かで「わか

らない」という状況が生まれてしまうことがわかります。たとえ自分の子供であっても、関わりを持つようとしなければ、子供への十分な理解をすることができないと言えるのではないかと思います。

前期同様、「㊸ご家庭では、家族で互いにあいさつをするようにしていますか。」の項目で100%の肯定的評価を得られています。

〈職員において〉

7項目中6項目において、100%が肯定的評価であり、【A】評価が【B】評価を上回っている結果です。その中で、前期と比較すると2項目においては【A】評価が増えているが、3項目においては【A】評価が減少しています。【C】評価が見られたのは、「㊸あなたは、校内研に主体的に関わっていますか。」の項目です。それぞれの分掌などにより、校内研に主体的に関わることの難しさがあるのではないかと推測されます。しかし、学級担任や授業担当者だけでなく、視点を変えての意見も学校経営・学校運営には必要であり、大切にしていきたいと思えます。

組織全員が一丸となって学校教育目標の実現に向かって取り組めるよう、意識を高く持ちつつ相互に協力し合い、職務に励むことが肝要であります。改善が図られよい傾向にあると言えませんが、職務を遂行することが児童一人一人に還元できることを自覚して日々の活動に取り組んでほしいと考えます。

【3】個別の分析

(1) 【確かな学力】にかかわって

学校の主となる教育活動の学習指導について、本校の教職員は授業を大切に考え児童に内容の理解が深まるように努めていることが、教職員の自己評価の結果から推察されます。“山梨スタンダード”に沿った「授業の組立」、言語活動を大切にした「対話的活動」、個々がその授業で何を学んだのかを確かめる「振り返り」、児童が内容を習得できたかを確認する「見取り」を大切にして実践していることが結果に表れていると考えます。どの学年でも同一歩調で授業が進められることは、進級しても安心感のある学習活動に繋がります。その安心感を基盤に、児童の主体的な学びに向かう姿勢を育てていると考えられます。今後も継続した取組を行い、求められている対話的で深い学びにできるようにしたいと考えています。

児童の回答結果を見てみますと、「わたしは、学校の授業がわかる。」の結果は前期よりも上昇し、さらに高い肯定率になっています。児童の多くが、日々の学習を十分に理解している様子がわかります。これは「わたしは、自分の考えをもって、他の人の話を聞いている。」の結果を反映しているものだと考えられます。しかし、「わたしは、授業中に自分の考えを伝えている。」では、肯定的評価はそれほど高くありません。未だ、集団討議等の学習形態に制限が課されている状況にあるからだと考えられます。情報端末を活用し自身の考えを発信する手立ても行っているが、全児童が同じように端末を扱えるわけでもないことから、このような結果になったと考えられます。児童一人一人が自分の考えを持ち、それに自信を持ちながら発信し、新たな考えと出会いながら学習に深まりが見られるような授業ができるよう、試行錯誤しながら取り組んでいくことが望まれます。

また、個にあった丁寧な指導を行う必要性が読み取れます。すべての児童に「確かな学力」が身につけられるよう、限られた職員ではありますが、有効な手立てを講じて充実感が持てるような指導に努めていきたいと考えます。

保護者からも、学校での学習理解にある程度満足できているだろうと考えられる結果となっています。情報端末を利用したりプリント学習で復習をしたりと興味・関心を高め学習の定着を図るような工夫をしていることに加え、家庭との連携が取れていると考えます。今後も家庭と連携し、協力をいただきながら、学習した内容の定着や発展的な学習につなげられるよう取り組み、学力向上の一助となるようにしたいと考えます。



(2) 【豊かな心】にかかわって (いじめに対する取り組みを含む)



“いじめ”に関わっては、4件が報告されています。前期と比較すると減少してきています。担任の適切な働きかけで大きなトラブルには至っていません。職員が生徒指導の基本を忠実に実践し対応しているからだと思われ推察できます。聞き取りに際しては、相互に対して共感的に児童に寄り添いながら行い、公正な立場で状況を把握し指導を行ってまいりました。大人からしてみると些細なことが原因でしたが、その児童にとっては大きなものだったことを認めながら、今後の人間関係が良好なものになるよう働きかけを行っています。

今後も「未然防止」「早期発見」「早期解決」に重点を置き、児童の様子に注視しながら軽微なものも見逃さず、良好な人間関係づくりに努め、誰もが気持ちよく学校生活を送れるようにしていく所存です。「西小は大きな家族」という理念の下、今後も、全職員がどの児童に対しても温かい言葉かけで信頼関係を築き、心豊かでたくましい児童の育成に取り組んでいきます。

挨拶については、本校でも重視している項目です。その肯定率から、3者とも意識して取り組んでいることが分かります。学校内外において、児童の挨拶がよく聞かれ、その礼儀正しさからも多くの高評価を得ています。しかし、児童の評価については、肯定率は高いが前期を大きく下回っています。縦割り活動や学校行事など、他学年との触れ合いに制限があり「いつでも」「どこでも」「だれにでも」「自分から」「気持ちのいい声で」が難しくなってしまったのではないだろうかと考えられます。再度、職員間での共通理解を図り、西小学校の良き伝統として、職員と上級生が手本を示し引き継いでいかなければならない大切なものだと考えます。

本に親しむことは、知識を広げてくれるだけでなく心を豊かにしてくれると言われます。本校児童は、本に親しむことがとても好きです。時間の合間を無駄にせず本に触れあっている様子がどの学年でも見られます。図書館主任、司書を中心に、図書室や読書に興味を持てるような取り組みを行っているからだと思います。学校行事で忙しい中でも貸し出す数の結果をみると、時間を見つけ図書室に足を運んでいる様子がわかります。司書を中心にした取り組みを今後も継続してまいります。

今年度から楡形西小学校は楡形中学校区小中一貫校としてスタートしました。これまで取り組んできた「無言清掃」「靴そろえ」も一貫校としての取組の1つです。その2つの取り組みに関して、肯定率が前期を大きく下回っています。何事も一つ一つをしっかりと行うことが大切です。丁寧にきっちり行うことは、心の落ち着きをもたらす集中力も高めることができます。たかが「無言清掃」「靴そろえ」かもしれませんが、意識して行うことで「自律心」「愛校心」「責任感」が育っていきます。この取り組みの工夫を行うこと、なぜこの取り組みが必要なのかという意味合いを児童に伝え、今後も継続して取り組み大切な「心」を育んでいけるよう働きかけたいと考えます。

(3) 【健やかな身体】にかかわって

「一日の活力は、朝食をしっかりと摂ること。」と言われます。元気に学校生活を送るために、家庭でも朝食を欠かさず準備してくれ、児童もしっかり食べてきていることが結果からわかります。これまで啓発してきたことが定着してきたからだと考えられます。

“早寝”“早起き”も大切だと考えられますが、本校の児童をみますと、前期同様にそれが十分でなく、少し悪い方向に進んでいる結果になっています。前期において警鐘を鳴らしてきましたが、その取組が十分ではなかったと言えます。学校の取組だけで結果を残すことができません。

児童に自覚を促し、家庭に協力を求めていくことで改善を図らなければならない項目です。このような状況になってしまう要因は様々考えられますが、児童の学校生活に支障がないようにするだけでなく、育ち盛りの児童に健やかな体の成長を遂げてもらうためにも早急な改善が必要だと考えられます。

普段の児童の学校生活の様子からですが、多くの児童は休み時間等に外に出て体を動かしております。中には、汗いっぱいになって体を動かすことを楽しんでいる児童も見られます。そのような児童がいる一方、室内で過ごすことが多い児童の存在もあります。体力づくりの面からみても体を動かすこと大切さにも目を



向けていかなければなりません。コロナ禍の中、新体力テストの結果から、子供の体力低下が明らかになってきています。西小学校の児童においても、種目によっては全国や山梨県の平均値を下回るものもあります。健やかな体づくりにも目を向けて取り組んでいく必要があります。

(4) 【学校・家庭・地域との連携】にかかわって



教育活動を進めるには、家庭や地域との連携は必要不可欠です。このことに関わる質問について、保護者からは前期と同様に 90%以上の肯定的評価を得られており、連携をとった教育活動がなされていると判断できます。また、「学校には、お子さんのことで相談できる先生がいますか。」という項目では、前期を大きく上回る結果となりました。児童の成長を見守り、児童が安心して学校生活を送れるようにするために、学校

は、家庭との距離が近くなるような関わり方をしていく必要があると考えます。今後も、家庭との連絡、相談、情報提供等を十分に行い、深い信頼関係が結ばれるよう努めたいと思います。それには、学校からの情報発信は必要不可欠です。児童の学校での様子や教師の思いが伝えられ、理解や共感してもらえることで信頼を得られると考えております。担任を含め様々な職員が学校の様子や思いを知らせるための“たより”や家庭への連絡など、家庭との連携が深められるように取り組んでいます。“信頼される学校”づくりのために、より充実した内容を周知していけるように今後も取り組んでまいります。

また、“地域とともにある学校”にするために、地域の人的資源や物的資源を活用し学習活動を進めてきています。西小学校は地域に支えられている学校です。地域を大切に考え、地域に関わってもらいながら教育活動を進めることを目指しています。そのような教育活動ができていることに誇りに感じているところです。これは、また、児童においても地域に誇りを持つことに一役買っています。今後も地域と共に歩んでいけるよう、特色ある西小学校の学習活動として継続できるようにしたいと考えています。

(5) 【情報端末】にかかわって



GIGA スクール構想の実現にもなって、昨年度より導入され、児童一人一人に貸与されている情報端末ですが、貸与されている情報端末を介した事案が発生しています。本市においても危機意識を高め、セキュリティの面・監視体制を強化している状況です。市教委からの報告では、本校児童は指導された情報モラルを守り、学習以外の使用や不正使用は見られていません。

“携帯電話”“スマートフォン”の所有率について、前期と比べると、若干多くなっています。学校においても、Society5.0の時代を生きていかなければならない児童たちに、安全に情報機器を使うことができるよう指導をしているところです。家庭においても、少しずつではありますが、トラブルに巻き込まれないよう“ルール決め”“フィルタリング”の定着が進んでいます。今後も100%を目指して児童への指導、家庭への啓発を継続してまいります。

おわりに、楡形西小学校の全児童がよりよい学校生活が過ごせるよう、また、充実した教育活動が展開できるよう、今回の学校評価をもとに改善に努めてまいります。これからも、変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。